



繪本
敵討

岩見英雄錄

四

遠
2509
35-4



遠
號 2509
卷 35-4

繪本復仇英雄錄前編卷之三

目錄

完戸侯爵御穿儀

兼三十八人不真追放話

三十八人會談の事

重右衛門小録を賜ふ圖

成尾吳之節御當せし事

肝洗毒計勸酒於石見

對人十分の誠意有とも。上の戴洋也何あらん心成痛りある
 所。井上が使者来りて父子とも彈定知れ出多れば。寅吉
 一はもと。蓋て勤一たる岩見十右衛門畏りいと答く。使者は
 三年も其者やませ。又子とも上下之流に後以て之の
 末代後へて登城一彈定所を系上りたる。井上より成尾
 飛彈成洲大寺の所。大川時を渡りて。箱崎を國争り
 及一二十人の親見と残らるる出りたり。若追て光城一
 一彈定所へお供りる。井上後河光十右衛門は呼出。其
 彈の子息十右衛門。去れ十八日箱崎へ懐宮の系上りの
 玉が方あり。同家中の系上り大勢。は編國争り
 及び社地成強。系上の群集成。世由。

神地と強ぐの。於家後。君源と願裁。此を以て。私の意。國争。此を危く。世系不忠。不
 の。主君の御憤り。恒く。陳謝の筋あり。連。寅吉。後。平。御。の。其。拙者。存。輝。井上。又。成。如。去。ね。十。日。拙。者。の。箱。崎。へ。懐。宮。へ。系。上。り。下。向。又。華。表。前。成。通。り。の。系。上。り。三。原。野。集。の。中。に。拙。者。が。引。當。成。尾。の。賢。白。の。成。見。に。後。中。若。人。の。面。に。玉。系。の。方。を。酒。を。飲。み。催。し。居。る。間。来。り。酒。の。間。成。は。る。る。は。や。受。け。られ。ぬ。拙。者。の。家。内。妻。

人々舟の侍はみゆらん万むせふははうは辞退中はみゆらん
は。おびとくも一赤兼引口もさへ巻付け袖引立て玉かか
うへ付りもいゆへ止るべし得む。酒多人の席へ懸出ぬ加衣玉
氏の初ぬけ。成尾具五郎殿と区り海中の諸士の多
遠。三千余人席上へ連座りて批者まへへ面く石血み
まけり。辞退仕どもも又さう理不る酒と強勅られ批者
が強引こ及びしとよく。まけり。批者悪口割へ大踏入てやも
ふ。こあまさんとせむ。さゆゆ。己事な得ん防。さ。冠平ふ
及け之。毒薬の玉家のもも見。さ。は。加。い。は。赤。平。等
い。さ。や。う。は。一。言。さ。る。も。後。さ。う。く。連。は。五。各。及。い。ち。や。う。
あ。ろ。も。れ。さ。り。や。
天晴器号の若者中。少人感嘆。さ。ら。の。さ。ら。り。井上。後。河

とを中へ感。い。さ。あ。ぐ。林。采。方。ふ。命。と。そ。は。書。さ。せ。疾。さ。う
取。よ。せ。有。し。と。足。し。く。下。使。成。呼。く。玉。家。の。ま。は。及。出。さ。う。せ
十五日。野。平。の。娘。未。成。回。礼。と。ま。中。甲。知。十。さ。う。の。口。上。と。お。違。を
子。非。子。け。も。ぞ。ぐ。口。上。さ。せ。て。玉。あ。い。返。り。あ。さ。せ。成。尾。飛
弾。及。び。共。余。の。三。千。八。人。の。諸。士。へ。白。ひ。も。件。連。の。子。息。余。矢。存
目。に。岩。見。上。ま。う。し。と。毒。程。酒。飲。ま。せ。り。刺。へ。一。人。の。者。三。千。余。人。と。ま。こ
め。い。せ。ん。と。却。對。お。の。み。な。お。ま。う。く。道。奈。不。法。毒。乳。の。上。毒。病
素。練。の。勒。止。言。語。同。以。ち。う。と。ま。る。右。の。内。怒。忍。の。外。之。も。場。内
娘。未。成。十。さ。う。玉。あ。い。返。り。中。知。さ。し。け。向。り。ま。い。も。料。本。人。と。召。出。し
何。れ。の。意。致。有。て。右。の。娘。不。法。の。對。平。に。及。び。や。遠。一。は。乳。以。て。さ。き。之
先。夫。と。い。名。野。平。中。知。さ。う。と。云。後。い。れ。が。成。尾。は。一。と。云。く



二十八名殿
の
一件
の
評定
の
圖



も者も各皆未面甲にて領事し。井上改めて岩見十
左共に向ひ、おぼし及び玉家より、案を十とて、
とて國津及び、後、神地と候、
とて、
侍と仰へ、
十を、
の董、
引、
の始、
其、

岩見父子成尾成瀬大川にも登城して大廣間へ懸出り、
安藝守夜出席あり。岩見上を弉召出さし、
目、
又、
中、
そ、
ま、
そ、
ま、
ま、
ま、

慶長傳 雜録 編卷三

竹父よりくらしきるれども山石見又子ハ大りな恨び御頭平
 衆して。これ一筋の所墨付ハ頂戴し深く君を射し
 奉り。又子とも面目成施し恨むしてぞ退出したる定六
 取又成尾成瀬大川三人召出さる。彼未三人の将とも箱崎
 ハ榎宮おま支の口とも俾んば榎中の中若者どもも後ハ
 出。大勢奔者移の酒宴びる。刻々岩見言さるると無体
 又酒席へ引込強て痛飲す。碓打の上あて悪に雑言し。勢
 一一人は窘んじ却て。重たうがみ見苦しく聲憊さる。
 中より金彦と妻一若も有るや。玉子の縁が食さるる
 武の心算は疎く。故に逸情弱のゆゑに諸人の唾食ひ世ハ
 後指と指さるゆゑ言語回りの曲事もぞ中が武名遣はる。

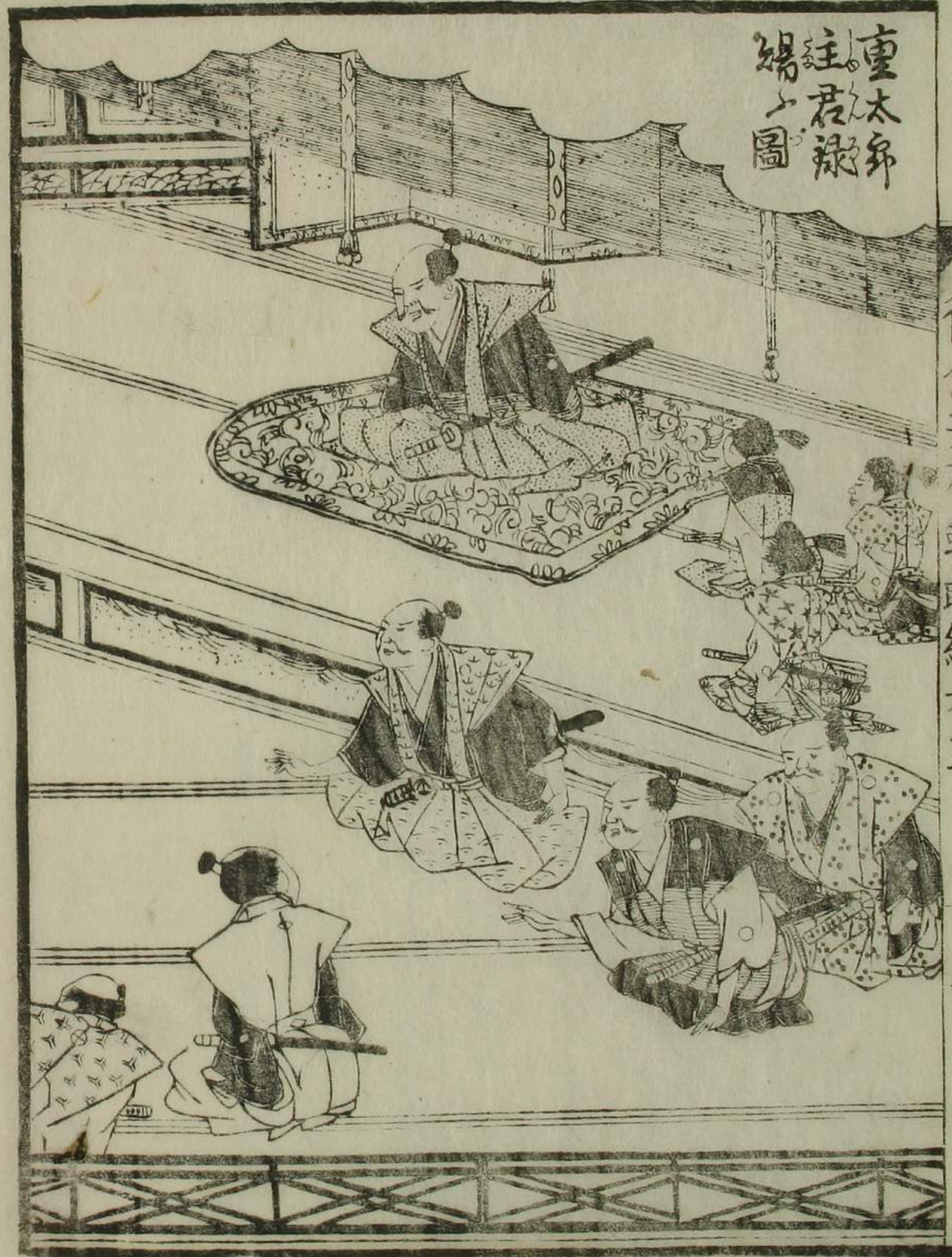
罪科甚ぞ以て。恨むべき友刑罰よりいふべきもこれども。
 汝ホがせんくの軍功よめん。死罪と宥つらるる者一々
 教訓とくま死とつらなり武徳を勉めけたびの恥辱を
 べた中やゆめよ。汝亦よとせる過いなるも。将もの不
 せは。依て五日牢門中ける也。又汝ホは三下余人の者岩見
 又子ハ私の送返成にこそ。不法の義あり。おあて。意を
 成れすべし。此方強者の大も。汝はよと教まより。汝は
 こそ。三人は此は。汝はよと。恨む。将ものつら。謝する。猫
 兎のい。くま。くま。私定。ま。ま。其。中。も。成。尾。成。瀬。ハ。師
 弟。や。一。子。兵。五。身。と。面。成。六。半。取。と。い。は。し。ま。る。と。本。服。て。い。ま。
 ヤ。不。知。存。者。汝。心。も。多。勢。と。一。人。の。山。石。年。を。以。割。と。る。事。

終りて却て渠があつたをばしと恨み懲りて面作を成せり。又母の遣
 難をせざるに傷さ不孝跡をばし。又白癩のこるにばし。不孝をばし
 我も今も君前より。吐り成りて。諸士のつらるる。前そ面目成失ひ
 甲門を意居の御社とせりたり。海をいさむる。の十さうの百平せの
 宋地成領し。と習格を成。そらも又祖の英回とありたり。
 母をばし。不らりの悴とあり。更にも言ある事。は。君へのカ。沃。も。討
 こそんぞ。覚。成。で。も。常。る。刀。も。成。り。な。れ。ば。妻。室。及。び。家。来。林。又。我
 大のよ。お。ご。ろ。れ。ぬ。人。飛。障。が。も。と。ご。う。舟。に。我。丈。馬。短。を。成。す。こ。い
 ね。も。只。五。年。ゆ。の。御。社。さ。う。し。や。ど。も。ま。ご。二。十。七。の。若。者。ま。あ。ち
 夜。酒。と。ま。じ。して。あ。か。ま。ら。う。れ。が。妻。へ。う。く。流。れ。給。ふ。此。後。の。此
 の。ゆ。ひ。に。ま。ま。せ。い。せ。間。の。あ。ひ。の。妻。も。や。で。免。せ。り。と。泪。と。成。り。て。あ。る。ま。あ

り。も。又。我。も。と。も。く。に。先。御。氣。成。流。れ。ぬ。人。は。情。け。さ。さ。の。よ。い。し。も
 か。さ。の。若。者。は。御。社。の。山。邊。う。う。も。ゆ。り。ん。二。十。余。人。の。人。一。可。上。酒。真。の
 上。の。ご。と。ま。ま。し。う。を。な。ま。れ。出。る。野。年。の。時。の。ご。う。う。て。ゆ。く。を
 御。社。射。有。べ。た。程。の。山。射。も。も。ゆ。り。ん。何。年。ゆ。の。射。の。あ。い。は。れ。あ。免
 遠。の。り。し。し。河。成。を。も。と。流。り。る。あ。と。流。岸。も。流。石。も。う。子。の。あ。い。は。れ。あ。免
 心。ひ。り。と。兩。人。の。流。言。う。は。怒。ば。し。あ。ま。ま。く。不。と。れ。る。悴。う。う。海。達
 の。流。言。と。用。ひ。さ。る。も。お。う。う。れ。も。ご。う。れ。も。子。射。の。あ。い。は。れ。あ。免。と
 ども。も。君。の。あ。い。は。れ。水。く。親子。の。我。と。助。初。高。た。は。常。刀。と。衣。集
 ひ。う。う。う。く。門。前。あ。う。う。追。拂。へ。し。河。あ。う。う。い。は。れ。流。石。流。石。も。ご。う。あ
 の。回。へ。ら。る。只。五。年。ゆ。の。あ。あ。ま。う。あ。ま。も。も。あ。ま。う。能。る。も。探。て。も。わ。ん
 たり。母。又。流。れ。ゆ。い。は。れ。い。は。れ。只。五。年。ゆ。の。あ。あ。ま。う。何。と。う。う。う。う。入。り。て。回。り。あ



寛政九年 雜行編卷三



重太郎
注君
錫山
圖

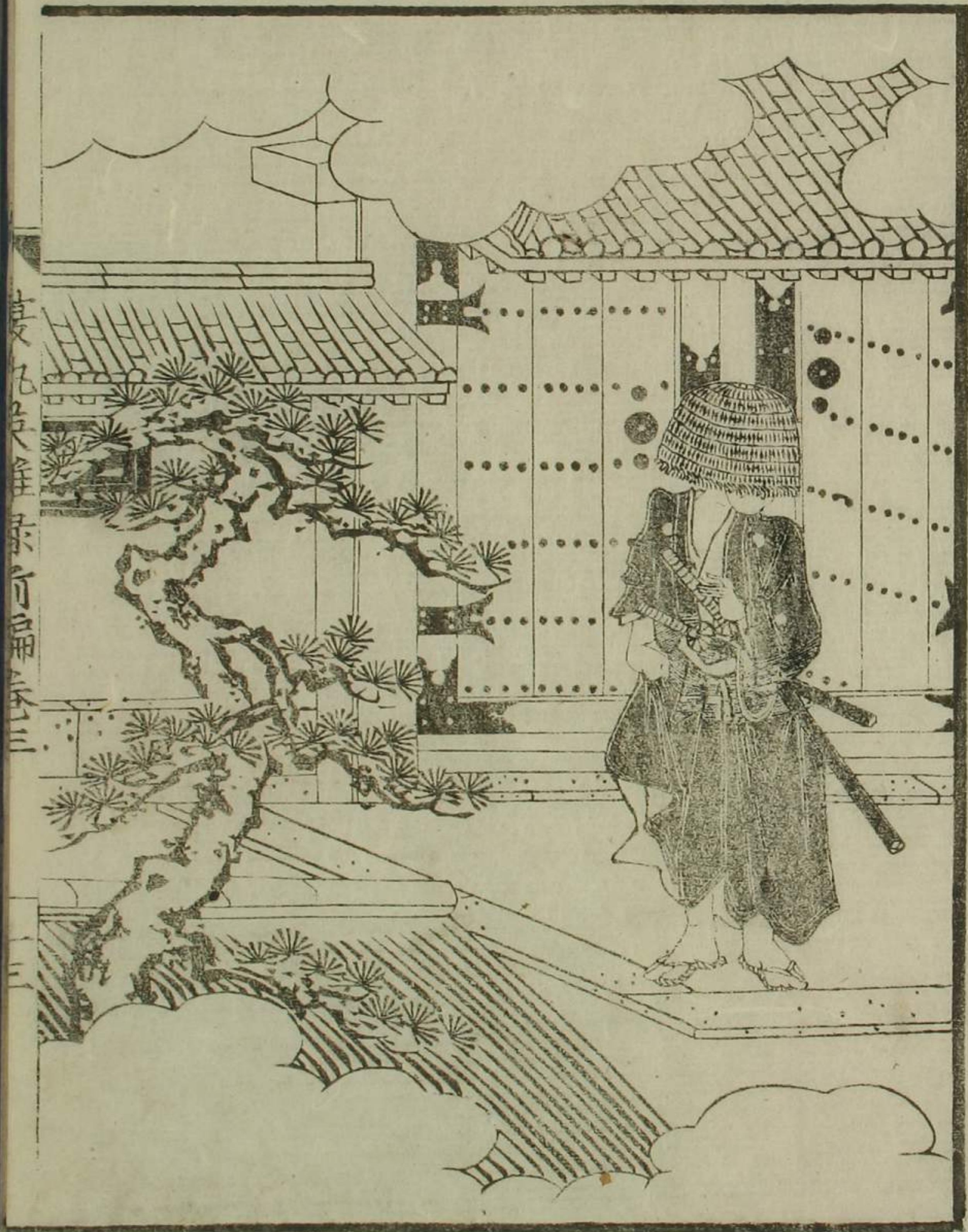
徳川幕府 繪師 紅卷三

又花中久く港へ帰回る中、所初高とある上も、拙者が於
 家へ金着きまゝの事、申しひり、後門へ移して、於
 まゝで、但し、久く所、先は、塔下の、結、も、人、重、重、の、実、業
 ある者、少くたゞ、用、向、と、途、を、空、ゆ、高、家、の、所、高、感、に、此
 ち、お、夜、の、所、用、の、つ、の、ち、高、地、も、お、勤、へ、は、平、日、持、者、中、居、坐、
 ま、が、若、良、好、と、あ、げ、く、十、を、つ、が、入、け、ま、つ、て、人、の、如、何、に、は、
 カ、れ、れ、と、早、あ、ま、つ、母、針、さ、ぐ、は、恨、む、美、う、を、む、付、う、の、結
 も、人、あ、つ、ま、を、結、さ、う、ぐ、て、高、位、と、ま、な、う、は、そ、何、う、
 二、三、時、ま、ま、宮、の、幼、高、中、を、人、が、け、ひ、ゆ、来、ま、つ、て、は、
 め、だ、し、美、列、も、あ、ご、又、花、中、も、早、あ、ま、つ、て、は、
 お、付、ひ、て、結、も、人、十、を、つ、が、あ、い、う、有、中、も、高、位、も、早、の、此、の、
 結、も、人、十、を、つ、が、あ、い、う、有、中、も、高、位、も、早、の、此、の、

新く、これ、十、を、つ、快、く、行、い、所、不、真、の、所、宮、免、ある、迄、
 年、ま、も、我、家、に、移、う、も、良、と、新、母、く、り、り、の、
 以、安、介、若、あ、つ、と、結、も、人、十、を、つ、が、あ、い、う、有、
 是、も、つ、つ、恨、む、肉、も、く、ま、腹、全、銀、木、式、我、子、送、う、
 此、又、不、自、由、と、せ、で、針、ひ、り、る、母、の、慈、然、社、も、
 好、佳、毒、巧、岩、見、勸、酒、 大、産、堤、又、傷、情
 成、尾、座、陣、が、早、五、拜、と、幼、高、く、追、高、世、更、一、中、
 成、尾、座、陣、が、早、五、拜、と、幼、高、く、追、高、世、更、一、中、
 長、尾、なる、成、尾、氏、子、は、皆、幼、高、有、上、の、我、く、も、安、岡、と、
 舎、長、尾、氏、子、は、皆、幼、高、有、上、の、我、く、も、安、岡、と、
 而、月、は、言、合、く、も、あ、ら、れ、も、皆、高、子、を、早、を、幼、高、

よにせしむるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と
よせらるるもくはつとて送るむいんさよ下へ城下の町人下戸と

素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は
素情せむといふの事候へりてさうして三十九人位は



徳川氏御前御用掛



呉五郎
勘高
せらま
圖

徳川氏御前御用掛

十二

二を待てしむりしむるは侍奉る。岩元十をうらむにしもま
 らむ八幡文へ社事しを細の神楽式あがるの事。神念るをねれ
 心辨ふ社内はアノアノ。又華表を命へしむる。玉を命の
 了成尾の五弁。成殿川へ巫大川他我九弁二人立出。石目
 ちがく。信持もまをうらむ。まをうらむ三人ひじくする。弁の
 取めて預るをまげ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 取。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 酒。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 の。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 浮浪人と成しも。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 中。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを

能く成て運くもまをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 来し再び帰来し。四の武士よまをうらむ。まをうらむ。まを
 の。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 居け。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 引合。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 が。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 成中。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 渠。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 ども。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 真。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを
 清。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まをうらむ。まを



寛政九年三月廿三日



善長
吳五郎
の
圖

寛政九年三月廿三日

ふんくわんが。忽ち皆神のト。後世に抜刀と振あざらふ人の此人多
投打つる僕。おもほ。し。つ。を。一。刀。で。切。て。落。し。置。つ。て。残。つ。て。十。五。年。を
切。つ。て。子。を。ぞ。若。見。つ。て。や。死。せ。る。者。を。皆。く。悔。み。て。夜。中。に。城。に
入。る。と。も。せ。る。者。を。完。く。後。中。に。若。見。つ。て。と。呼。ぶ。嗚。呼。の。者。お。も。お。知
ら。ぶ。や。虎。の。首。を。引。ん。と。後。悔。さ。す。と。の。う。ま。に。是。の。利。刀
小。豆。長。光。二。人。五。寸。板。も。ア。セ。も。初。ま。向。い。入。の。知。人。と。ぞ。を
ど。ん。と。切。く。落。し。及。と。刀。又。ア。人。看。先。う。け。る。た。如。殺。海。軍。号。と
わ。ざ。ら。く。残。り。の。は。欠。た。め。い。る。あ。ら。ま。の。十。五。年。を。推。し。下。さ。し。申。入。共
刃。鳴。三。人。因。付。腰。車。血。煙。を。つ。と。忽。ち。止。止。ゆ。申。入。申。入。追。討。を。止
ま。せ。し。大。振。切。ら。れ。お。も。初。め。後。後。う。回。ら。す。不。復。面。あ。い。し。か
の。刃。が。わ。ら。つ。つ。は。れ。ん。殺。し。癖。を。と。て。疑。ひ。く。に。在。余。人。早。く。殺。尾

成。海。大。河。と。下。の。奸。徒。等。之。如。け。る。後。た。右。多。勢。の。故。成。引。上。る。に
三。面。六。臂。の。魔。術。を。う。つ。と。も。の。が。ま。ら。ぬ。と。う。ん。と。う。ん。と。う。ん。と。う。ん
初。め。不。例。の。ま。を。初。め。傷。が。絶。然。怪。徒。の。習。い。傳。へ。る。十。五。年。并。此。を
怖。く。ま。せ。さ。り。持。つ。る。刀。が。車。輪。の。一。つ。に。振。ま。か。り。お。も。お。も
あ。ら。ま。と。し。矢。を。ぞ。三。人。切。く。落。し。四。人。に。傳。へ。つ。て。初。め。は。恐
ろ。く。逃。げ。ぬ。お。も。お。も。人。に。じ。ろ。の。悪。徒。と。ぞ。み。す。り。二。回。う。う。ま。を。の。殺。定
月。ま。さ。り。つ。つ。に。う。ろ。た。ら。す。は。は。ま。ら。ぬ。の。う。う。と。振。起。す。車。輪。を。う。う。の。殺
お。げ。と。刃。が。わ。ら。つ。つ。は。れ。ん。殺。し。癖。を。と。て。疑。ひ。く。に。在。余。人。早。く。殺。尾
か。け。た。ら。う。胸。切。腰。切。あ。ら。ま。と。し。呼。ぶ。嗚。呼。の。者。お。も。お。知
ま。名。あ。ら。ま。初。め。の。ま。を。初。め。傷。が。絶。然。怪。徒。の。習。い。傳。へ。る。十。五。年。并。此。を
は。ら。へ。ん。刀。が。車。輪。の。一。つ。に。振。ま。か。り。お。も。お。も
い。ろ。く。命。を。ま。ら。す。る。は。ら。へ。ん。殺。し。癖。を。と。て。疑。ひ。く。に。在。余。人。早。く。殺。尾



三十一
大空屋場
三十八人
皆殺の
圖



奸徒へ此を告ぐるが外に奴等遠方の某の某の天狗の秘蔵
 三人又一同に人々作及る秘蔵の秘蔵も負救人も腫れらるが
 何れもあらず其途の旅迄のあつても切らざる切替と
 多勢のらば切替と一若後腫れつ四日と違むと一刃と杖と
 作と槍と並行作はにさうさうとさうさうと杖を引たり。若月
 差よ面瓜つまむ山崖斗はん是素玉瓶三つ岩見と大い
 作夫一腹の差よ思へらく切替と多勢の奴の野伏夜泣と
 思ひの外もさういふ三十余人の者どもさうさうとさうさうと今
 玉さうさうと成尾成瀬大川の三人劫奪の執成たのむし能く我
 酒は強く酔ひおのまらぬ疾くまきり一はげ強く待伏
 大勢さうさうと我は欺け討てん巧なる事迄奴らわけて知るよはり

せ初とす奸計とぞ。瓶三が頭髪極んで宙に投げつる奸
 賊海二十余人の内とて成尾の命の消さるさうさうと今實加とさうさ
 うさうと後的一件つまむ白杖さうさうと一命を助け連ぬる今實加とさうさ
 うさうと世はらん長年への杖ではんが我々の刀杖は汝が五件と二百六十の
 穴を那おの苦痛とあやむびいさやくと呼わりはる瓶三の血
 深両ふたお合は後とさうさうとさうさうとせんあふ杖ゆらわれ既後友
 成放してさびむへさうさうと白杖は杖とさうさうとさうさうと
 是さうさうとさうさうと成尾其五身杖さうさうと二十余人の後
 三時と時息とつき成尾其五身杖さうさうと二十余人の後
 素と結びの糸さうさうと待伏してさうさうと圍討とせん
 計。奸計の始末白杖とさうさうと岩見とさうさうとあつらん

と独り。先奉玉に投給う。縛玉切外也。死骸のあうく
 け其面と検らるる。果して皆藩中の者ともらるれば嘆息
 我言々又と帝祓けい者ども。厚糸がけいそんを思ひふ
 腹も。も我と暗付おせし却て見苦し死に成けしる悪
 よ。天乃之実と思ひ玉ひ泣人と成べた奉玉に。我の得にちりふ
 ちりふ。染も死にせ。謝陳の指さるる。さう。噴きさう。独
 又奉玉の得くまゆり其金屋。後検らるる。方高般し右の二腕
 ニテ折く。まよひ。肩く。ことども。まよひ。急雨の降く。まよひ。先腰さ
 美筆。被り。まよひ。用之。の。回生丹。之。合。で。服。まよひ。羽織。と。初
 捜して奉玉に被く。被。口。ひ。まよひ。川。さ。下。血。まよひ。さ。り。く。洗。流
 して。鬚。又。収。め。二。息。は。まよひ。せ。く。け。上。り。別。表。ち。まよひ。さ。る。待。成。た。り

わろ。常。に。被。く。奉。玉。成。羽。あ。ま。不。服。引。抱。逸。是。出。て。吾
 郎。へ。独。り。押。十。を。拜。八。枚。大。枚。お。し。て。積。し。竹。の。坂。道。成。を。り。し。よ。う
 自。強。し。脚。早。く。ま。り。急。い。で。ま。あ。り。六。一。口。三。十。室。以。外。道。達
 者。の。れ。を。皆。射。子。賊。下。者。我。郎。金。屋。ま。今。子。負。成。危。し。所
 せ。其。此。と。又。の。居。間。へ。手。り。有。し。後。是。成。海。り。り。ま。よ。ひ。十。左。の。ま
 二。三。の。れ。を。信。を。出。て。庭。ま。り。子。負。の。傍。人。の。子。端。に。照。し。と。面
 仲。成。檢。め。ら。ん。ふ。ま。し。後。奉。玉。源。吾。の。將。執。こ。ら。れ。が。再。い。お。ど。ら。れ
 多。あ。下。僕。に。命。じて。医。師。と。違。事。し。ま。有。し。仲。間。が。ま。よ。ひ。身。入。さ。り
 医。師。に。奉。お。た。扱。十。を。多。り。向。ひ。二。年。余。人。の。者。も。の。死。亡。せ。り。已。か
 求。し。獨。り。海。邊。に。大。勢。を。ま。よ。ひ。け。た。ま。科。ま。り。あ。り。成。候。て
 先。繩。を。う。ち。き。後。痛。す。の。頭。う。之。併。べ。し。と。我。子。と。青。繩。を

待り。一向の八は、（？）の長き、箱提灯照る也。先、（？）緒士
頭、（？）の郎へ、（？）の

繪本復仇英雄録前編卷之三畢

